

学校教育目標：「向学 自立 協働」 校訓：「夢を実現」



川通中だより

～スローガン：「一生懸命はかっこいい」～

令和8年2月2日 第10号
さいたま市立川通中学校
TEL 048(799)1061
川中キャラクター ホームページ



「心を開く窓」

校長 鈴木 純

大型の寒波の影響で、寒い日々が続いているが、先日、近所を散歩していたら、早くもロウバイが黄色の花をほころばせ、美しく咲いている場所に出合いました。梅の花もいよいよ見ごろの時期です。庭の沈丁花も小さなつぼみをたくさんつけ、「甘い香りを周囲に届けたい」と開花の準備をしています。

早いもので、3年生は私立高等学校の受験を無事に終え、次のステージ（公立高等学校受検）に向けてラストスパート中、「You've got this！」応援しています。2年生は、鎌倉の校外学習を通して、次年度の修学旅行に向けた事前学習や班活動の取組をする上での手ごたえを実感することができました。1年生は、2泊3日の館岩自然の教室で、さいたまでは体験できない自然の厳しさや生涯スポーツであるスキ一実習を通して、困難を乗り越える力や自信につなげることができました。また、仲間たちと寝食をともにした活動から、「思いやり」の心がさらに育まれました。それぞれの学年が様々な取組を通して、次年度に向けて、たくましく成長しています。

さて、私が本校に赴任した時、一番印象的だったのが、「あいさつができる生徒たちが多い」、続いて、「フレンドリーな生徒が多い」でした。当時と比べ、現在も「変わってないな」と思っていたのですが、2学期に行われた学校評価の結果を見ると、前年度と比べ意識が変わっていることに気づきました。「活気があふれ、あいさつがとびかう学校」という項目について、前年度は「そう思う」42.1%、「ややそう思う」57.9%と全校生徒全員が肯定的な回答をしていましたが、今年度は「そう思う」27.8%、「ややそう思う」61.1%をあわせて88.9%という結果となりました。前年度と今年度の内訳をみると「そう思う」という生徒が減少していることがわかります。約90%の生徒が肯定的な回答をしているので、良好な結果なのですが、自信をもってあいさつすることに躊躇（ちゅうちょ）してしまう生徒が少なからずいるのではないかと感じました。「あいさつは心を開く窓」、その時々の気持ちで窓の開き具合が違うかもしれません、「あいさつ」は互いの心を和ませてくれる潤滑油のようなもの。常に窓を大きく開き、明るい光を入れたいですね。

ある中学校の生徒会本部役員が話し合って、「あいさつはこんな効果があります」と、全校生徒に呼び掛けたキーワードがあるので紹介します。参考にしてみてください。

1、感謝を伝えられる 2、仲良くなるきっかけ 3、好印象を与えられる 4、緊張をほぐせる

話変わって、この時期になると思い出することがあります。以下・・・・「卒業に思う」

この職業に就いて、担任として、当該学年として、毎年たくさんの卒業生を送り出してきた。

音楽を担当するものとして、「式歌をどう盛り上げようか」「どんな言葉をかけてあげれば、より気持ちが入った歌になるだろうか」と、試行錯誤しながら卒業式の練習に臨んでいた駆け出しのころを思い出す。

初めて担任の命を受け、運よく3年生まで持ち上がることができた学年は、至らないところを子どもたちに助けてもらいながら卒業の日を迎えることができた。卒業までの道のりは、様々なことがあったが、ここでは割愛させていただく。職員席は、男子側の席であった。隣には年代を同じくする教諭が座っていた。肃々と式が進行し、「答辞！」。代表生徒が3年間を振り返り感謝の言葉を述べた後、卒業生の「式歌合唱」。♪イントロそしてAメロ、Bメロ♪サビと卒業生の歌声が響いていく。自分は微動だにせず、また、うっかりするとあふれそうな涙をこらえながら、視線を遠くして聴いていた。すると、目の前の机が微弱ながら揺れている。「地震！？」と隣の教諭に目をやると、自分よりずっと背が高く屈強な男性教諭が、大粒の涙をこぼして泣いていたのだ。「いかん」と思い、あわてて視線を遠くしようと目を前に向けると、1年生の時に担任したやんちゃな男子生徒が顔をくしゃくしゃにして、一生懸命に歌っている姿が目に飛び込できた。堰（せき）を切ったようにあふれる涙。どうにもならなかったことを今でも思い出す。「大人になって、涙を流すなんて」、しばらく無かった体験だった。改めて、これが「感動なのか」と、確認した一コマでもあった。「先生って、こんなにも感動する場面に立ち会える。なんていい職業なんだ」。以来、音楽を通して、感動を伝えようと今に至っている。